

Iwaino Daichi

いわいの大地

4月

No.42

農家と農業委員会をつなぐ広報誌

竹内美由紀さんは大東町の高校を卒業後、神奈川県銀行に就職。そこで出会った俊司さんと結婚して、神奈川県で30年間暮らしてきました。東日本大震災のあと、夫婦で、岩手県で暮らそうと決めて移住してきたそうです。移住後5年は大船渡市で生活をして、その後、美由紀さんの実家に近い東山町に転居してきました。

東山町に移住してから、まったく経験のない農業に挑戦すること。昨年はJAの育苗センターを借りてトマト栽培のトレーニンングを経験し、今年からハウス3棟で本格的にトマト栽培に取り組



〔東山地域〕………
 竹内 美由紀さん (57)
 俊 司さん (56)

郷土で 土を耕して 暮らす

みま。露地栽培にも挑戦。トマトだけではなく、いろいろな野菜を栽培すること。

美由紀さんは「農地を持っていなかったら、土地を貸してくださる方を探るところからのスタートでした。JA、行政の職員の方、そして東山町の方が本当に親身になってくださいました。ギリギリのタイミングで東山町の方が偶然、農地を探している私たちの話を聞いてくださり、貸してくださるようになりました。水のことで、そのほかすべてにわたって地域の方々のご親切に感謝しています。」と話します。

二人は「皆さんのご親切を忘れずに、手を抜かず、コツコツと頑張っていきたい」と話していました。

農作業を安全に見直そう！

農業機械作業の安全対策

近年、農作業中の死亡事故は多発傾向にあり、岩手県内では10年間で119名もの尊い命が失われています。市内でも平成30年に5件、令和元年に1件の農業死亡事故が発生しています。

農作業事故は、圃場だけでなく公道や自宅の敷地内など身近な場所でも発生しています。また、機械作業中以外にも、圃場への移動や機械の点検整備中など、発生状況は様々です。

このような事故を起こさないためにも、次のことに気を付けて農作業を行いましょう。

- 農業機械の点検・整備は、必ずエンジンを停止してから行いましょう。
- いざという時に、運転者以外でもエンジンを停止できるよう、日頃から農業機械の緊急停止ボタンやエンジンキーの位置を家族で共有しておきましょう。
- 転落事故から体を守るため、トラクターには安全フレームを装着し、運転者はシートベルトをしめましょう。
- なるべく一人での作業は避け、家族にはあらかじめ作業場所と帰宅時刻を知らせておきましょう。
- 農作業に出かけるときは、携帯電話を持ち歩きましょう。



地域農業マスタープラン実質化、令和2年度は地域の話し合いを進めます。

市内を33地区に分けて、すでに実質化されている12地区を除く21地区についてアンケート調査を実施しました。この後はアンケートを集計し、農業者の年齢構成や後継者の有無、5年後の農地の管理意向などを地図に落とし、地域の農地現況地図を作成しています。令和2年度は、この地図を元に地域の5年後、10年後の農業の将来方針を話し合い、マスタープランにまとめます。

令和元年度から進めている
地域農業マスタープラン
実質化の取り組み



先行モデル地区厳美13区（一関地域）の話し合い

【先行モデル地区の取り組み】

プラン実質化の取り組みは、対象地区が多く対象範囲も広いことから、元年度はモデル地区を設定して先行事例を作ることを進めました。

モデル地区に選定した厳美13区（一関地域）は、耕地面積129ha、水稻栽培が主な地域で、地域の担い手不足を補うため農業生産法人を立ち上げている地区です。10月か

らアンケート調査を実施（回収率74.3%）し、その結果をまとめて農地現況地図を作成した上で、同地区の役員と協議してマスタープランの原案を作成し、2月に地域の話し合いを実施しました。

話し合いは、中山間地域等直接支払集落協定等の会議に合わせて行われ、農業委員会から地域担当の農業委員と農地利用最適化推進委員も出席しました。

同地区の方針は、農地中間管理機構を活用し、地域の農業生産法人と認定農業者を中心に農地集積を進め、基盤整備については実施後約30年が経過していることから、改めて農地の大区画化等の基盤整備事業を検討しながら、現状の農地集積率59%から今後さらに集積を進めていくというものです。

話し合いの中では、マスタープランを作成するメリット、高齢化が進む中の後継者や担い手の確保、基盤整備から外れた農地の維持管理、鳥獣被害対策等さまざまな意見が出されました。

農地の効率的な利用の促進を

令和元年度農地パトロールを実施しました

国内の食料生産を支える大切な資源である農地は、適正かつ効率的に利用されなければなりません。令和元年7月から9月にかけて、市内全域の農地パトロール（利用状況調査）を行いました。

これは農地法の規定に基づき、遊休農地の実態把握と発生防止・解消、違反転用の発生防止・早期発見を目的に農業委員と農地利用最適化推進委員、農業委員会事務局・支所産業経済課職員等が市内農地を調査したものです。

再生可能農地は利用意向調査を実施

再生可能と思われる作付けされていない農地の所有者には、利用意向調査を行っています。今後の農地の利用や管理方法の選択肢のうち、農地中間管理機構への貸付を希望すると回答があった場合は、機構へ情報提供して農地の貸付けを進めます。

再生困難農地は非農地判断

再生困難と思われる荒廃した農地の所有者には、荒廃農地調査を行い、今後も管理できないと回答があった場合は、農地に該当しない旨の決定「非農地判断」を行います。

非農地と判断した農地については、所有者に非農地通知書を送付するとともに、市・県・法務局等関係機関にも通知します。この判断と通知により、農地台帳の農地から除外され、固定資産税の評価も変更となります。

なお、登記地目は農地のまま変わりません。登記地目を変更するには、本人による登記申請が必要ですので、農業委員会から送付される非農地通知書と登記申請書により法務局で手続きをしてください。



公道走行可能になりました

直接型作業機装着 トラクター



このほど、道路運送車両法の運用が見直されたことにより、要件を満たせば農作業機をトラクターに装着したままで公道を走行できるようになりました。要件をよく確認し、安全に注意して走行しましょう。

灯 火 器 類	農作業機を装着しても灯火器類（方向指示器、後部反射器、前照灯、車幅灯、尾灯、政道灯、後退灯）が他の交通から確認できること。 確認できない場合は灯火器類を別途設置する必要があります。（車両のサイズによっては不要の場合もあります。）また、確認できる場合でも、取付位置により標識等が必要な場合があります。
車 両 幅	農作業機を装着した状態で1.7mを超えている場合は、機体左右両側にサイドミラーを設置すること。 農作業機を装着した状態で2.5mを超えている場合は、特殊車両通行許可を受けたいうで、標識等を設置すること。
安 定 性	安定性（傾斜角度）の保安基準（30度または35度）を満たすこと。 満たしていない場合は、標識等を設置したうえで運行速度15km/hで走行しなければなりません。 農耕トラクターと作業機の組み合わせによる安定性の確認結果は（一社）日本農業機械工業会のホームページで確認できます。
免 許	農作業機を装着した状態で長さ4.7m、幅1.7m、高さ2.0m（安全キャブや安全フレームの高さ2.8m）のいずれかを超える場合は、大型特殊免許が必要。

また、トレーラタイプの農作業機を牽引した場合も、一定の条件の下で公道走行を可能とすることが国土交通省から発表されています。詳しい要件等は、農林水産省、国土交通省のホームページなどで確認したり、農機販売店に相談するなどしてください。

令和2年度農作業標準賃金決定

人力は引き上げ、 機械は据え置き

農業委員会では、令和2年度農作業標準賃金を別紙のとおり決定しました。

標準賃金表は、目安を定めたものです。実際に作業料金を決める際は、地域の事情や圃場の条件を勘案し、委託者と受託者で十分に話し合って調整してください。

農作業標準賃金の決定にあたり、2月4日に農作業標準賃金審議会を開催しました。農家の代表者、農業関係団体等の職員、農業委員会農政専門正副委員長が委員として審議した結果、人力の部について人力作業は日額200円、オペレーターは日額300円引き上げることとし、機械の部については据え置きとの意見集約がされました。

標準賃金はその後、2月10日に開催した第5回農政専門委員会での協議を経て、2月25日の第18回農業委員会総会で議決されました。

令和2年度の変更項目

人力の部

◆人力作業の標準額を

1日（8時間）当「6,500円」から「6,700円」
（1時間当840円、超過1時間当1,050円）

◆オペレーターの標準額を

1日（8時間）当「10,300円」から「10,600円」
（1時間当1,330円、超過1時間当1,660円）

女性の力で農業の活性化を



2月13日、盛岡市で女性農業委員・農地利用最適化推進委員活動研修会が開催され、岩手県内の女性農業委員・農地利用最適化推進委員約60人が一堂に会しました。

活動報告では、花北、胆江、大船渡、二戸・久慈の各地区から地区別懇談会の概要が発表されたほか、地域農業マスタープランの実質化に向けた取り組み状況なども報告されました。

その後、全国農業委員会女性協議会副会長の笠原尚美氏を講師に迎え、「女性委員が地域で活躍するために『食育と人・農地プランの切り口から』と題して講演が行われました。32歳で農業委員となったから20年間の経験を持つ笠原氏は、現在は新潟県阿賀野市農業委員会の会長職務代理者として活動しています。講演では新潟県内の女性委員の食育事業についてや、自らの農地あっせん活動の事例、人・農地プランの実質化に向けた農業委員会の活動状況などについて話がありました。

出席した松岡千賀子委員は「自然と打ち解けて話せるのが女性の強みだと思う。地域の話し合いに女性の明るさや気配りが大きな役割を果たしていると感じた。様々な年代の方との交流、他の地区との情報交換会で親睦が深まった話を聞き、今年度は一関でも地区別懇談会を開催したい。」と話していました。



農業者年金で明るい将来計画!

自ら加入し 地域へ周知を

【千厩地域】遠藤 真一 さん



農業者年金のお問い合わせは
農業委員会またはお近くのJA窓口へ
電話 21-8692
(一関市農業委員会)

千厩町小梨の遠藤真一さん(39)は、乳牛35頭を両親と一緒に経営するほか、平成30年9月から農地利用最適化推進委員として活動しており、意欲的に農業と向き合っています。

真一さんは、岩手県立農業大学校を卒業後、北海道の酪農家で1年半の研修を経て、平成14年に就農しました。1日2回の搾乳作業、牛舎の清掃、飼料の配合、餌やりを毎日欠かさず行っています。また、耕作放棄地を活用して牧草の栽培にも取り組んでいます。

「生き物相手の仕事なので、思うようにいかないことが多い。急なお産や病気にかかることもある。難しい仕事ではあるが、それ以上にやりがいを感じる事ができる。そう思えるのも周りの皆さんの助けがあるから」と笑顔で話します。

農業者年金には、平成30年12月、38歳で加入しました。農業者年金は以前から知っていましたが、就農したばかりで経営が安定せず、保険料の支払い

にも不安があったため、加入には至りませんでした。しかし、ここ数年で経営の流れが見えてきたことや、地元の農業委員や周りの農家さんからの勧めもあり、将来を考えて加入を決意したそうです。

「実際に年金を受給している方から、農業者年金に加入してよかったという話をよく聞く。自分も保険料の国庫補助があることや支払った保険料の全額が社会保険料控除の対象となることに魅力を感じている。農業者にとって良い制度だと思うので、地域の農業者に制度のメリットを周知していきたい」と話してくれました。

今後の目標について、「牛たちを健康に育てて、安定した収入を確保していきたい。地域の農業者が少ない今、自分のできる範囲で、地域の農地を有効に活用していきたい」と話す真一さん。

貴重な地域の担い手として、さらなる活躍が期待されます。

全国農業新聞



購読料

月額 700円

全国農業新聞の購読を!

農業委員会組織が協力して作成している新聞で、毎週金曜日発行しています。

●お申込みは、農業委員会または各支所産業建設課まで

農業委員会では、一関市のホームページで委員会に関する情報を提供しています。毎月の総会日程や議事録、農作業標準賃金、届出や手続きの案内などを掲載していますのでご覧下さい。

<https://www.city.ichinoseki.iwate.jp/>

一関市のトップページの「総合案内トップページ」をクリック。画面上部の「産業振興」タブから農業委員会ページへお進みください。



編集後記



ある調査によると、一関市の平成19年度(10月1日基準日)における65歳以上の高齢化率は36%弱で、市内8地域のうち4地域は40%を超えた結果が発表されました。農村は、少子高齢化社会の中で、人口減少による人手不足とともに後継者不在が農家のみならず他産業でも顕著になっています。

幸せとは、したい仕事ができ、したい消費ができることであると、作家の故堺屋太一さんが話されました。どれくらいの人が自分は幸せだと思っているのか想像してみましたが、私には見当が付きませんでした。

私が住む中山間地域は、農地の集約・集積が困難であります。これまで中山間地域直接支払制度事業等をおとし、地域で協力し支えあつて農地、農道や水資源を守ってきました。農村では、耕作放棄地は似合いません。きちんと維持管理された農地が広がる自然と共有しながら生活できることが、健康的であり幸せに繋がるものと思っています。

農地利用最適化推進委員 菅原 清一

「いわいの大地」編集委員会

編集委員長 佐藤 圭一
副委員長 千葉 太郎
編集委員 佐藤多賀幸 畠山 潔

菅原 清一 藤原美喜男
遠藤 勝幸 菅原 良博

